

多高通信

第190号 令和3年8月27日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

軽音楽部 全国総文祭に

出場してきました!



8月3日・4日の2日間、本校軽音楽部3年生バンド・トロイカが、和歌山県の粉河ふるさとセンターで行われた第45回全国高等学校総合文化祭・軽音楽部門に宮城県代表として出場してきました。

この全国総文祭は文化部のインターハイとも呼ばれ、軽音楽部門では各県での予選を勝ち抜いて出場権を得た全国各地のバンドが一堂に集結し、高校生とは思えないレベルの高いパフォーマンスを披露しました。コロナウイルスの影響で昨年度の高知大会はWeb開催となりましたが、今年度は無事に開催することができました。

■リーダー・ベース担当

3年4組 但野 来夢 (田子中出身)
今回私が第45回全国高等学校総合文化祭に参加して一番感じたことは、ライブができることの楽しさと素晴らしさです。

昨年は新型コロナウイルスの影響で活動が縮小され、悔しい思いをしている先輩方の姿をいろいろな場面で見ってきました。この総文祭も、一昨年度の新人大会でグラブリを受賞した先輩方が昨年度に開催されるはずだった高知総文への出場権を得ていましたが、Web開催という形での実施となってしまいました。今年度の和歌山総文の開催形式がどうなるか心配していましたが、開催して頂いたことに非常に感謝しています。宮城県内の大会は無観客での開催なので、全国から集まった高校生や運営スタッフである和歌山県の高校生に演奏を見て頂くことが出来て本当に嬉しかったです。

私は顧問の先生から頂いた「演奏は見てくださっている方々に披露する演技である」という言葉を心に、観客の方々に私たちの熱量や思いが伝わるような練習を日々心掛けており、本番ではいつも通りの楽しい演技をすることが出来ました。また、全国から集まったハイレベルな高校生バンドの演技に心から魅了されました。どのバンドも個性に溢れていて、高校生である今でしか伝えられない思いが強く伝わってきました。生徒交流会もあり、運営をして下さった和歌山の生徒さん達や他県のバンドとも友好的な関係を築くことが出来ました。

この貴重な経験は私にとってかけがえのない思い出になりました。これからも、音楽を楽しめることができる人になれたらと思っています。総合文化祭は音楽の力を改めて感じる事が出来る有意義な時間でした。

吹奏楽部 県大会結果報告

■部長 3年1組 高橋 楓花(中野中出身)

私たち多賀城高校吹奏楽部は、8月5日に全日本吹奏楽コンクールの県大会に出場してきました。東北大会でも通用する演奏を県大会でも披露することができるよう、多数の講師の先生にご指導いただきました。私たちは、フレーズ、ユニゾン、ハーモニーを合わせる練習などたくさんさんの練習を重ね、今年度の多賀城高校のサウンドを構成してきました。本番直前のリハーサルでは十八番曲の「September」を歌って、落ち着いた状態で本番に臨むことができました。県大会はコロナ禍にあっても有観客で大会が開催され、本番中は、観客の皆様にご覧いただくことができ、感謝と幸せな気持ちでいっぱいでした。私たちは金賞を受賞することができましたが、残念ながら東北大会への出場は逃してしまいました。この悔しい思いは一生忘れることができないと思います。コンクールに向けて行った練習では様々な反省がありました。それらを今後どのように生かしていくかが、東北大会へ進み、最終目標である全国大会へ抜け金賞を受賞することへのカギとなると思います。



後輩たちは次の大会であるマーチングコンテストに向けて走り出しています。これからも感動する音楽を追求し、多高サウンドを全国大会の舞台上で響かせてほしいです。

沢山のご協力や応援、ありがとうございました。今後とも多賀城高校吹奏楽部をよろしくお願いします。

科学部 高校生バイオサミット

8月11日、第11回高校生バイオサミット。鶴岡がオンラインで行われました。慶應義塾大学先端生命科学研究所・高校生バイオサミット実行委員会の主催で行われるこの発表会は、生物部門での科学発表大会で、研究成果部門と研究計画部門の2つの部門からなります。日頃取り組んだ研究の成果を発表するとともに、大学教員や県外高校生との意見交換を通して、科学的思考力や課題発見力、プレゼンテーション能力の向上を図るものです。今回は事前の1次審査(書類審査)を通過した発表題による1回戦のオンライン発表が行われ、「マクラギヤス



デの生態調査」生息の北限と未知なる生態に迫る」と題し、本校科学部5名が発表に臨みました。残念ながら決勝進出とはなりませんでしたが、研究の着眼点や豊富なフィールドワークが高く評価されました。

■1年6組 濱野 瑞紀(中野中出身)

他の参加校の発表は自分がこれまで見たことの無いようなものばかりで、とても新鮮で驚きました。多くの発表を聞くことで新たな情報や視点を獲得することができ、考え方の裾野を大きく広げることができたと感じています。この経験を活かして、今後の研究にも励んでいきたいと思っています。

JR東日本・災害科学科

津波避難に対する意見交換会

8月10日、災害科学科1・2年生10名が、JR東日本宮城野運輸区の協力により、電車に乗っている時に地震・大津波警報が発令された場合の避難方法についての意見交換会を行いました。

まず、JR東日本の安全対策を職員の方からご紹介いただき、本校災害科学科の取組を発表しまし

た。それらの取組をもとに、高校生から率直な質問をさせていただきました。JR東日本宮城野運輸区管内には本校の最寄り駅である下馬駅があり、日常的に利用している生徒も多く、最初は緊張した様子だった生徒たちも次第に防災や減災の視点からの質問も出るようになり、休憩時間にも各自で職員の方と意見交換を行いました。

次に、地震・大津波警報が発令されたときを想定した電車からの避難訓練に参加させていただきました。組み立て式の階段を利用した降車だけでなく、電車から線路に飛び降りる避難方法も教えていただきました。生徒から「電車から線路までは思っていた以上に高さがあった。」「きちんとした降り方をすれば恐怖感なく降りることができた。」などの意見があげられました。また、「地震・大津波からの避難では電車の運転手と車掌の2名で多くの乗客を避難させるため、率先避難者と呼ばれる一般の乗客の協力が必要であり、そういった避難を率先して行えるよう避難方法を考えていくことに加え、自分の住む地域の避難場所はどこなのかといった地域の理解が必要だと感じた。」といった意見もあがりました。

最後に、シミュレーターを利用した運転体験・車掌体験をさせていただきました。

日頃なかなか考える機会がない、電車に乗っていると、きの津波避難の方法を様々な経験を通して幅広い視点から考える貴重な機会になりました。この意見交換会で感じた課題や災害を学ぶ高校生ならではの気づきを、課題研究でさらに深め、次回の意見交換会で提案します。

高校生の素朴な質問にも丁寧に答えてくださったJR東日本宮城野運輸区の皆様へ感謝申し上げます。

